令　和　５　年　度　自　己　評　価　表

愛媛県立宇和高等学校　(38)

教育方針	・質実・剛健で責任感が強く、独立精神と実践力を持つ人材を育成する。 ・敬愛の心豊かな、清純・明朗で優しさのある人材を育成する。 ・学友仲良く、師弟の絆を強め、隣人愛を持つ人材を育成する。	重点目標 [　]は 昨年	自己実現に向けた基礎力と判断力を育む教育の推進 ～自己理解力と表現力を養う～

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
1 学校経営	特色ある学校づくり ＜教頭、教務、企画振興＞	○教職員の相互の連携を深め、生徒が自己実現を果たすために必要な基礎力と判断力を育む教育活動に取り組む。 ○小規模校（三瓶分校及び市内県立学校）間での連携を深めるため、遠隔授業を年間10回以上実施する。 (A:10回以上 B:９～７回 C:６～５回 D:４～３回　E:２回以下) ○地域や行政と協働した教育活動を行い、地域に開かれた学校づくりに努める。	B ［A］	○本校の特色の一つに全校体制による進路指導がある。今年度も校長を含む全教職員が一丸となるて生徒の進路実現に向けて取り組んだ。令和４・５年度は、文部科学省指定人権教育研究事業に取り組み、全教職員が人権スキルを高め、生徒の人権意識高揚が図られた。 ○遠隔授業は、その準備等に多くの時間が割かれた反省から、現体制下で効果的に実施できないと判断し、今年度は実施しなかった。 ○令和５年６月に宇和高校魅力化コーディネーターが就任し、地域や行政と連携した魅力化に積極的に取り組んだ。西予市のまなび推進課とも定例会議を通して魅力化推進の方向性を細かく検討した。	○魅力化コーディネーターの自己実現を果たすために必要な基礎力と判断力を育む教育活動に取り組む。 ○令和６年度は、三瓶分校が閉校に向けた最終年度となる。分校と連携できる活動を計画に盛り込み積極的に参画していきたい。 ○西予市まなび推進課との連携体制をより強め、魅力化コーディネーターを中心とした宇和高校魅力化プロジェクトに積極的に取り組む。
	安全・安心な学校づくり ＜総務＞	○生徒や保護者が安心できる安全な学校環境・施設設備の整備を図り、安全管理を徹底する。 ○健康管理、防災訓練などの危機管理の徹底を通して、安全・安心な生徒の学びを確保する。 ○「危機管理マニュアル」を見直し、非常時に適切に対処する。	B ［C］	○令和５年度はトイレの改修・整備が進みトイレが明るく清潔になり、快適な生活環境が提供された。 ○文部科学省委託「学校安全実践力向上サポート事業」危機管理マニュアル見直し支援コースに申し込み、１月初めにコメントをいただいた。令和５年度は日本全国で多くの災害に見舞われており、本校も危機管理マニュアルの改善について検討していたため、この見直しコメントをもとに緊急性の高いものから改善していく。	○学校環境・施設設備についてはトイレ整備の継続に加えて、令和８年度からの総合学科への改編に伴う設備の充実が図られている。 ○危機管理マニュアルについては、見直すべき項目が多いため、令和６年度もアドバイスに従って改訂していく必要がある。また、見直したものを教職員に周知するようにしたい。
	学校教育活動の公開と情報発信 ＜教務、情報、企画振興＞	○教育活動を公開する機会を増やし、保護者や中学校、地域住民等との交流を深める。 ○ホームページやＳＮＳ等の情報発信を充実させ、生徒・保護者・地域の理解を深める。 ○報道機関への情報提供を充実させる。	A ［A］	○公開授業週間や中学生一日体験入学等を実施した。また、中学校での高校説明会では魅力化コーディネーターも同行し、本校の魅力のＰＲができたと考えている。 ○ホームページに次の点の充実を図った。 ・トップページのイメージを刷新 ・受検生に向けた宇和高校の魅力発信ページを開設 ・宇和高盛り上げ隊のインスタグラムへのリンクを設定 ・宇和高盛り上げ隊のＷｅｂページへのリンクを設定	○学期中に実施している公開授業（年２回）の来校者が１週間の公開期間で10人未満である。学習指導要領が目指す「地域に開かれた教育課程」の第一歩として、学校に地域の方に来ていただくことが必要である。公開授業週間の来校者を増やす方策を考え実践していきたい。 ○総合学科への改編を見据えた中で、中学生が求める高校の在り方等を再考し、本校の魅力を積極的に伝えていきたい。
2 学習指導	家庭学習の充実 ＜教務＞	○ＩＣＴ活用等を含めた課題の出し方(質や量、教科間のバランス)等を各教科で研究する。 ○家庭と連携し適切な課題の設定により１日の家庭学習時間２時間以上を確保させ学習習慣の定着を図る。 (A:２時間以上 B:119～90分 C:89～60分 D:59分～30分 E:30分未満)	B ［B］	○引き続き、普段の家庭学習において、ＩＣＴを活用した課題の出題や提出等を実施している。 ○10月に実施した「生徒による授業評価」の中の「予習復習をしている」という項目において、17.5%の生徒が低い自己評価をしている(R4:16.6%)。 ○家庭学習時間の確保に努めており、家庭学習時間2時間以上の割合は、85.5%で、継続して、課題設定を考慮する必要がある。	○継続してＩＣＴの活用等を含めた課題の工夫を各教科で研究し各教職員のＩＣＴ活用能力も向上させる。 ○授業評価の結果について再検討するとともに　家庭学習時間の確保のため、各教科における課題内容を改善する。 ○生徒の進路希望を把握し、適切な質と量の課題を課して進路実現へつなげたい。
	教科指導の充実 ＜教務＞	○主体的・対話的で深い学びを目指し、効果的な評価法の導入による学習指導を行い、学習内容を定着させる。 ○ＩＣＴの活用等の指導法や教材研究を行い、生徒の学習意欲を向上させ、主体的に学ぶ態度を育成する。	B ［B］	○対話やグループ学習ができ、楽しく学習ができるようになった。また、Wi-Fi環境も整い、一人１台端末等を活用し、生徒の学習意欲の向上につながっている。 ○継続して、教職員のＩＣＴ活用の研修を実施し、身近なものとなるよう鋭意努力している。	○引き続き、主体的・対話的で深い学びを目指し、評価法も含め授業方法を研究する。 ○生徒が積極的に一人１台端末を活用する仕組を研究する。 ○教職員全員で　ＩＣＴ機器の活用に取り組み、技術の修得に努める。
		○選択科目設定や平常日補習、習熟度別学習等による、個々の学習理解度や進路希望に応じた丁寧な指導を行う。 ○生徒各自の健康管理を促し、皆勤率を向上させる。	B ［B］	○選択科目を充実させるとともに英語と数学で習熟度別の講座編成を実施している。 ○コロナ禍以降、発熱等における通院であれば出席停止（公欠）としているが、皆勤率が下がってきている。（２学期末43.5%）	○選択科目を多く設けて生徒のニーズに対応するとともに、習熟度別講座において個別指導の充実を図っていく。 ○計画する学校行事等は、通常通り実施し、楽しい学校生活を送らせたい。引き続き、生徒に健康管理を促し、皆勤率を向上させたい。
	読書指導の充実 ＜企画振興＞	○生徒の興味・関心を尊重して読書意欲の向上を図り、生徒の言語活動を充実させる。 ○朝読書週間を活用して朝読書の定着を図り、図書貸出冊数年間１人10冊以上を目指す。 （A:10冊以上 B:9～7冊C:6～4冊 D:3～1冊 E:0冊） ○多読賞（年間30冊以上貸出）受賞者数が全校生徒の10%以上になることを目指す。 （A:10%以上 B:9～7% C:6～4% D:3～1% E:1%未満）	B ［C］	○ＨＲ教室がある教棟の廊下に移動図書棚を設置する等、今年度ならではの取組を行い、読書の推進に取り組んだが、１月末現在では、図書貸し出し数は若干の減少である。 ○1月末現在、図書貸出冊数は、年間１人7.4冊である。 ○多読賞受賞者数は、１月末現在では３年生のみの集計で８人である。３年生の受賞者率は約12%である。	○来年度も新たな取組を試したいと考えている。新しい図書委員と協働して方策を考えたい。 ○図書委員が率先して宣伝をしてくれているが、さらなる広報活動を考えたい。一案として１人１台端末を利用した宣伝・アンケートを試したい。 ○生徒からの要望図書を気軽に把握できるような仕組みを考えたい。その上で生徒たちの求める分野の図書を購入していきたい。 ○予算が毎年減額されているのでそろそろ増額してもらいたい。
3 生徒指導	高校生らしい態度の育成 ＜生徒＞	○身だしなみを整える社会的意味を理解させ、生徒が主体的に規則を遵守する態度を育てる。 ○多様性を認め、互いを尊重し合う態度を育てる。 （A:100% B:99～80% C:79～60% D:59～40% E:40%未満 ）	B ［B］	○日頃より特に服装の乱れは少なく学校生活を送っている。生徒総会で提出された校則に関する要望を生徒が主体となり、校則検討委員会を実施し、女子のポニーテール、おだんご、ハーフアップや運動靴登校を認めた。再指導の生徒も少なくなり、丁寧な指導により改善されている。 ○昨年度、制服の規定から男女の表記をなくし、スラックスやネクタイを着用している女子生徒も増え、多様性を認め合う学校生活を送ることができていると感じている。	○身だしなみについては、普段の生活から意識して取り組んでいくように全教職員で指導をし、今後も校則の見直しを生徒主体で検討させたい。 ○風紀委員が中心となってクラスに呼びかけをするなど、生徒自身の意識づけを進めていきたい。
		○「三つのする（挨拶・返事・後始末）」を徹底し、学校生活を通じて、主体的に取り組む態度を育てる。	A ［A］	○「三つのする」は生徒に意識され、生徒の自発的な規範意識も向上している。	○生徒自身が「あいさつの意味」を理解し、コミュニケーションを取る第１歩であるという自覚を持たせ、よりよい人間作りができる能力を育成する。
	自分や他人を大切にする指導の充実 ＜人権相談＞	○全校一斉面談や教育相談等を充実させ、生徒が教職員やＳＬＡに相談しやすい環境をつくる。 ○家庭と連携して問題を早期に発見できる体制づくりを進める。	B ［B］	○悩みのアンケートを４月と１月の年２回実施した。アンケート項目に「ＳＬＡや教員との面談を希望しますか」という内容があるが、生徒から希望はなかった。問題が深刻化する前に生徒から積極的に教育相談を利用することに対して、生徒の中に抵抗があるように感じる。より相談しやすい環境と体制の整備を構築する必要がある。	○全校一斉面談では、養護教諭、ＳＬＡとの面談を希望する生徒が多くいた。掲示物等で毎月の来校日を案内しているが、平常授業日は昼休みと放課後の限られた時間になる。生徒が利用しやすい体制を整えたい。 ○生徒の些細な変化に気付き、抱えている問題の早期発見につながるよう教職員への啓発と、担任、養護教諭、ＳＬＡおよび学年団等の連携を深めたい。
		○教職員が共通認識の下、連携した生徒指導体制をつくり、「いじめ問題等」を防ぐ。 ○生徒が互いを尊重し、多様性を認め合うとができる良好な仲間づくりに配慮した集団形成を目指す。	B ［B］	○今年度のいじめ件数（認知）は０件であった。教職員の学校評価アンケートでは、「問題行動未然防止のため、教師間での十分な連携」「いじめについて、生徒の発する危険信号を見逃さない、的確な対応」がともに昨年度4.4から4.2へと、やや下降傾向がみられるが、「生徒との信頼関係づくり」は4.5であり、どれも高い数値で推移している。 　また、今年度「自他の人権を守るための行動力をはぐくむ人権教育の推進」に関わる様々な取組を実践したことにより、生徒の人権アンケートの他者を思いやる実践行動に関わる２つの項目は、肯定的な回答が90%前後と高い数値を維持している。	○今後も家庭との連携、アンケート調査や一斉面談、担任との面談等を通して、いじめ等を早期に発見するとともに、教職員が共通認識を持てるような連携の強化に努めたい。 ○今年度実践した様々な取組を今後も実践し、自他の人権を守るための行動力を身に付けた生徒を育んでいきたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
4 進路指導	進学、就職指導の充実 ＜進路＞	○進学及び就職希望者への小論文（作文）及び面接の個別指導を充実させ進学・就職率を100%にする。 （A:100% B:99～90% C:89～80% D:79～70% E:70%未満 ） ○各種検定に対する受検意欲の喚起を行うとともに、補習等を充実させ、検定試験合格者数延べ250人以上を目指す。 （A:250人以上 B:249～220人 C:219～190人 D:189～160人　E:159人以下）	B ［B］	○就職及び進学希望者に対して、全教職員体制で生徒個々に応じた小論文（作文）及び面接指導を実施した。進学・就職内定率は、89.6%（２月５日現在）となっている。 ○商業関係の検定試験では136名、実用英語技能検定19名、日本漢字能力検定８名の合格者数（それぞれ延べ数、２月５日現在）となっている。	○就職及び進学希望者に対して、全教職員体制での面接等の個別指導を今年度同様に計画的に、効率良く実施する。 ○各種資格取得への広報を継続して受検者数を増やし、対策・演習の充実を図りながら検定合格への意欲を高め、資格検定の合格者数を向上させる。
	進学指導の充実 ＜進路＞	○国公立及び難関私立大学の合格者数10人以上を目指す。 （A:10人以上 B:9人 C:8人 D:7人 E:6人以下） ○総合型選抜・学校推薦型選抜の研究及び生徒一人一人に向き合う細やかな指導を行い、生徒の受験校研究の実施率を100%にする。 （A:100% B:99～90% C:89～80% D:79～70% E:70%未満 ）	B ［A］	○国公立大学合格者８名及び難関私立大学合格者０名（２月５日現在）となっている。現在は、一般入試での合格に向けて、入念な個別指導を行っている。 ○全教職員の協力のもと、生徒の志望に応じた総合型選抜及び学校推薦型選抜の受験を今年度も数多く行うことができた。	○３年生及び卒業生の取組を１・２年生に伝えるとともに、教員全体でも情報共有・意思統一を図り、本校の継続した取組として定着させる。 ○学年団及び該当教科担当教員間での連絡・相談を一層密にし、早期からの進路選択に係る取組を生徒に促す。
	就職指導の充実 ＜進路＞	○就職準備に対する指導を徹底し応募前職場見学実施率を100%としミスマッチを防ぐ。 （A:100% B:99～80% C:79～60% D:59～40% E:40%未満 ） ○綿密な就職指導を行い、生徒一人に付き面接練習を10回以上行う。 （A:10回以上 B:9回 C:8回 D:7回 E:6回以下）	A ［A］	○就職準備に対する指導取組は例年通りに実施でき、応募前職場見学も100%の実施率となった。職場の状況を知りミスマッチを防ぐ好機会となっている。 ○関係教員だけでなく全教職員が就職希望生徒に対して、夏季休業中から受験直前に至るまで、10回を上回る個人面接の練習を重ねられた。	○就職準備に対する指導を今年度同様に徹底し、応募前職場見学の実施率も100%となるようにする。 ○教員の面接指導力が更なる向上を遂げられるように、校内外の研修会等への参加や教員相互の情報交換を行う。
5 特別活動	部活動･クラブ活動の充実 ＜特活、農場＞	○各部が活動内容の工夫により魅力ある部活動を実施し部活動の加入率を90%以上を目指す。 (A:90%以上 B:89～80% C;79～70% D:69～60% E:59～50%)	A ［A］	○体育部門160名、文化部門62名、合計222名の高加入率を維持している。	○令和８年度へ向け県が示す部活動改革に沿って、本校の実状に合ったスタイルを考えていく中で活性化させていきたい。
		○日々の練習内容の充実により各部のレベルアップを図るとともに県大会以上大会出場者数80人以上を目指す。 （A:80人以上 B:79～50人C:49～30人 D:29～20人 E:20人未満 ） ○農業クラブ等における各種発表・競技のレベルアップを図り、県大会出場者数５人以上を目指す。 （A:５人以上　B:４人　C:３人　D:２人　E:１人以下）	B ［C］	○73名が県総体に出場した。本・分校合同で活動することにより、出場が可能になった部活動もあり、この数年間は相互の助け合いで良い効果が出ている面もある。73名の県大会出場について、近隣の同規模校と比較した場合、全校生徒数に対する県大会出場選手の割合は決して少なくない。	○入学生徒数の増加も見込まれており、南予の中核校を目指して、部活動の活性化を図りたい。
		○全国大会に出場する生徒を育成するため、技術・体力・メンタルのレベルアップを図る。 ○四国大会以上の出場者数10人以上を目指す。 （A:10人以上 B:9～7人 C:7～5人 D:4～2人 E:１人以下）	A ［B］	○今年度は、陸上競技部９名、水泳部１名が四国大会以上に出場する実績を残した。また、陸上競技部は、全国大会に出場する機会が増え、部活動を発信源として以前の活気が戻ってきたように感じる。	○今年度は個人種目による上位大会への出場が中心であったので、個人種目だけでなく団体種目での出場や、文化部においても上位大会へ出場できるよう、全体的なレベルアップや活動の活性化に取り組んでいきたい。
	地域に貢献する活動の充実 ＜特活＞	○地域や行政、市内の県立学校や幼・小・中との連携を深め、ボランティア活動、地域イベント等に多くの生徒が参加する機会を作る。	A ［A］	○感染症の拡大状況等を考慮しながら、生物工学科の交流活動をはじめ、ＶＹＳ部や家庭クラブのボランティア活動、特別支援学校との交流、高校生ご当地グルメ甲子園等、多くの行事に参加した。市議会との意見交換も継続して実施している。	○参加生徒の固定化が見受けられるので、より多くの生徒が様々な場面で参加できる活動の形態を考えていきたい。宇和高校の活動について、外部への発信・アピールも必要もより積極的に行いたい。
6 業務改善	業務効率化のための改革 ＜教頭＞	○校務支援システム等ＩＣＴの活用により、業務の効率化や省力化を図る。 ○定例会議等について、頻度、内容、方法等を見直すことによる業務効率化対策を講じる。	A ［B］	○校務系グループウエアが変更（ミライムに変更）され、職員間の連絡体制のＩＣＴ化を加速させた。 ○職員会議は議題の精選、職員朝礼はグループウエアやクラウドの活用を開始、運営委員会は開催頻度を大幅に削減する等、各定例会議に要する手間や時間を大幅に削減できた。	○ＩＣＴの整備が進む一方で、紙媒体による情報共有が激減したとは言えない。今後は、紙媒体の縮減に取り組む必要がある。 ○定例会議の持ち方は、まだまだ改善の余地があると考えているので、ＩＣＴやオンラインを効果的に活用することにより、効率化を進めていきたい。
	勤務時間の適正化と職場の環境整備 ＜教頭＞	○定時退勤日の設定、長期休業中におけるテレワークの推奨、年次有給休暇の取得促進、部活動休養日の設定による休日の確保等、勤務時間の短縮対策に取り組む。 ○ストレスチェックの活用や職場の環境整備により、教職員のメンタルヘルスの向上を図る。	A ［B］	○土曜補習廃止、部活動サポート顧問制の導入など、教職員の土日の過ごし方にゆとりが持てる改善に取り組んだ。また、テレワーク環境の整備により家庭から校務が処理できる環境が整い、働き方がより柔軟になった。 ○今年度は、職員に対する健康に関するアンケートを２回実施し、年度当初からの変容を分析した。その結果を評価・分析し、改善が必要と思われる集団に対して管理職面談を実施するなど、職場環境の改善に積極的に取り組んだ。なお、本校のストレスチェックの結果は、県下平均に対して良好である。	○教職員の働き方改革は、喫緊の課題である。労働時間や業務量の削減に引き続き取り組むとともに、やりがいや働きがいの向上による働き方改革も重要であることから、職員が宇和高校での職務に前向きに取り組める職場環境の構築に努めたい。 ○ストレスチェックや健康に関するアンケートを引き続き実施するとともに、実施結果を衛生委員会等で評価・分析し、学校医等とも連携を図りながら、教職員の心身の健康管理を適切に行い、働きやすい職場づくりに取り組みたい。

※ 評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。